漁業資源・漁場調査と情報提供事業

安江尚孝・高橋芳明・御所豊穂・小川満也・藤田朋季・林　寛文

目　　的

漁業資源の適切な保存及び合理的・持続的な利用を図るための資源評価，資源動向把握，資源管理手法の検討に必要な基礎資料を整備するとともに，和歌山県周辺海域における海況のモニタリングを行う。また，調査結果をもとに，関係漁業者・団体に情報提供を行う。

なお，本事業は水産資源調査・評価推進委託事業による。

方　　法

2023 年 4 月から 2024 年 3 月に主な標本市場（図 1）で，漁獲データ収集等の資源調査（マイワシ，カタクチイワシ，ウルメイワシ，シラス，マサバ，ゴマサバ，マアジ，マダイ，ヒラメ，トラフグ，サワラ，スルメイカ，サンマ，ブリ，ムロアジ類，タチウオ，イサキ，ハモ，マルソウダ，シイラ，クマエビなど）を行うとともに，漁業調査船「きのくに」を用いて，海洋観測（卵稚仔調査を含む）を月 1 回，沿岸定線 24 定点及び浅海定線 18 定点において実施した（図 1）。

結果及び考察

上記魚種について，標本市場での漁獲データを蓄積した。主たる魚種の漁獲動向を図 2 に示す。瀬戸内海標本 2 市場（西脇,栖原）の船びき網によるシラスの漁獲量は，年を通して継続した漁獲があったが，4～5 月に漁獲が少なく，年間漁獲量は平年を下回った。瀬戸内海及び紀伊水道外域標本 3 市場（比井崎,御坊市,田辺）のまき網によるサバ類漁獲量は，3 月と 10 月にピークがあったが，3 月を除くすべての月で平年を下回った。マアジ漁獲量は，3 月と 11 月に比較的多かったが，4～10 月はほとんど漁獲がなく，すべての月で平年を下回った。マルアジの漁獲量は，産卵期前の 2～4 月と 11 月に比較的多かったが，すべての月で平年を下回った。瀬戸内海標本 1 市場（加太）の一本釣りによるマダイの漁獲量は，6～7 月を除くすべての月で平年を下回った。紀伊水道外域標本 1 市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシの漁獲量は，盛漁期の 7 月を含めてすべての月で平年を下回った。

海洋観測の結果については，国立研究開発法人水産研究・教育機構（水研），各都道府県水産試験場及び一般社団法人漁業情報サービスセンターで構成されるネットワークシステム（FRESCO）を用いてオンラインデータベース化を行った。また，海洋観測の結果を整理した海洋観測表を公表した。水研による資源評価の対象魚種については，水研により資源評価が策定，公表された。その他の魚種については，水研により資源動向がとりまとめられ,公表された。迅速に公表することが有効な情報については,「漁海況情報」や「紀伊水道春シラス漁場調査速報」などを通じて関係漁業者・団体に提供した。「第 54 回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議」,「令和 5 年度太平洋イワシ，アジ，サバ等長期漁海況予報

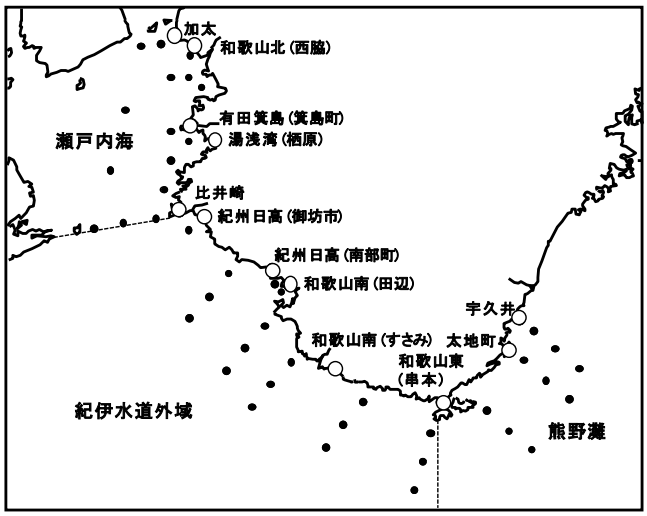
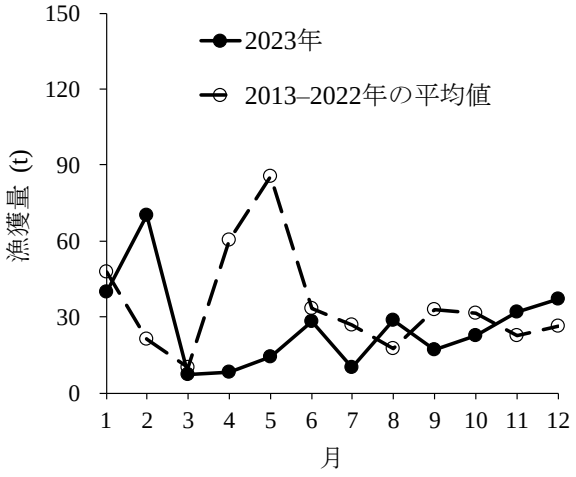
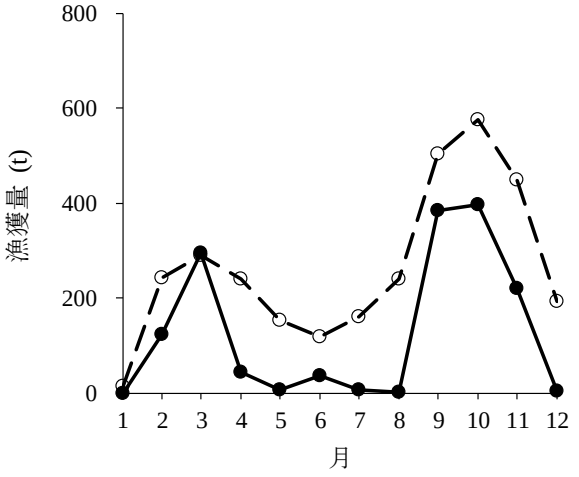


図 1 主な標本市場（○）と海洋観測定点（●）

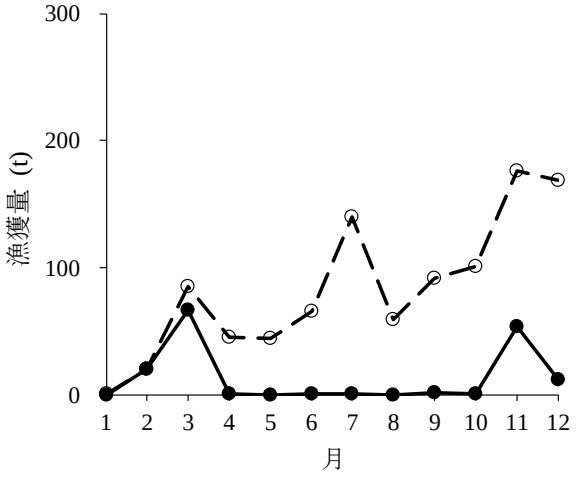
会議」，及び「令和５年度中央ブロック卵・稚仔，プランクトン調査研究担当者協議会」などにおいて，本事業の調査結果を報告し，水研により漁況予報や会議報告書が公表された。



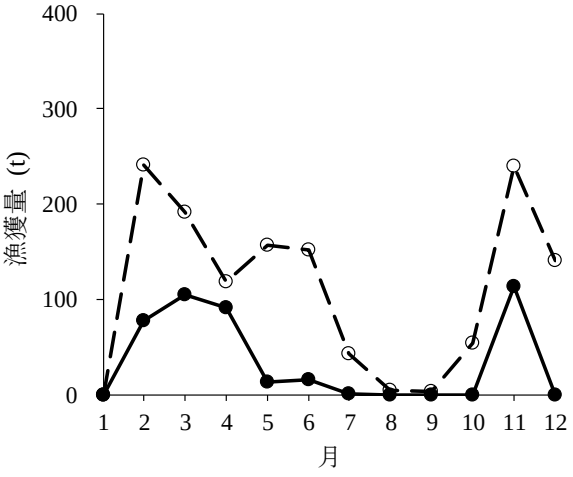
瀬戸内海標本2市場の船びき網によるシラス漁獲量



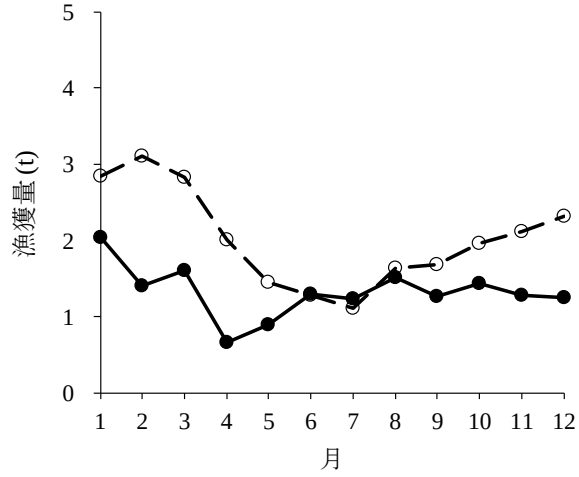
瀬戸内海及び紀伊水道外域標本3市場のまき網によるサバ類漁獲量



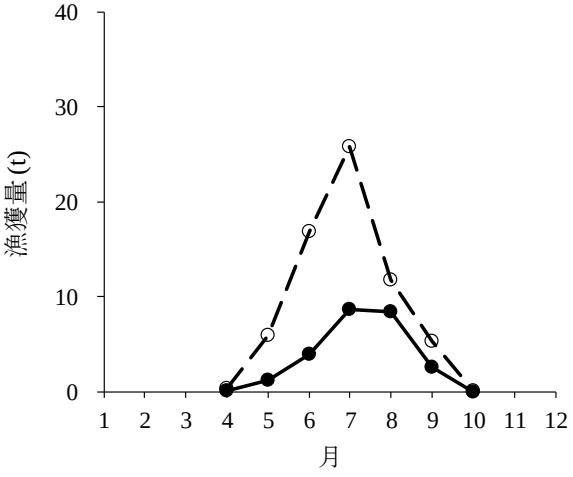
瀬戸内海及び紀伊水道外域標本3市場のまき網によるマアジ漁獲量



瀬戸内海及び紀伊水道外域標本3市場のまき網によるマルアジ漁獲量



瀬戸内海標本1市場の一本釣りによるマダイ漁獲量



紀伊水道外域標本1市場の棒受網によるウルメイワシ漁獲量

図２ 主要魚種の月別漁獲量